

## 収穫、収穫後処理(中核農家への実践研修)

中核農家への実践研修(=FFS・FBS(※)・種子生産)もいよいよ収穫の時期を迎えました。第4回(収穫作業)を10月6日・13日に(HB州・BM州で)、第5回(収穫後処理作業)を10月20日・27日(HB州・BM州で)に実施しました。第5回時には収量の測定も行いました。FFS研修では、認証種子か否か、施肥をしたか否か、それら条件によりどれだけ収量に差が出るのかを比較する目的で研修用圃場を4区画に分けていました。それぞれの区画の結果は以下の表の通りで、BM州の一番良い区画は887kg/haの収量となりました。HB州では病虫害被害が多く、その状況を研修時に農家に見せるためにあえて対策を遅らせたことで全体的に収量が下がってしまいましたが、それでもプロジェクトが推奨する栽培方法に則った区画が両州とも一番良い収量結果となりました。

\*それぞれ、FFS=Farmer Field School(農民圃場の学校)、FBS=Farmer Business School(農民経営学校)の意味。

FFS用圃場の4区画の収量結果

州	区画	栽培面積(m <sup>2</sup> )	収穫量(kg)	収量(kg/ha)
ブックルドゥム州(BM州)	① 認証種子使用、施肥有り	100	8.870	887
	② 認証種子使用、施肥無し	100	8.225	822.5
	③ 認証種子不使用(ローカル種子使用)、施肥有り	100	6.975	697.5
	④ 認証種子不使用(ローカル種子使用)、施肥無し <sup>(1)</sup>	100	4.245	424.5
オーバッサン州(HB州)	① 認証種子使用、施肥有り	100	3.4	340
	② 認証種子使用、施肥無し	100	2.9	290
	③ 認証種子不使用(ローカル種子使用)、施肥有り	100	0.7	70
	④ 認証種子不使用(ローカル種子使用)、施肥無し <sup>(1)</sup>	100	0.034	3.4

(1) この区画では栽培方法も農家に一任した。BM州ではラインに沿った播種を行い、HB州では伝統的なばら蒔きによる播種方法であった。



写真(左から): ①収穫作業の様子。(10/13、BM州) ②乾燥のためゴマを束にして立たせている様子。(10/13、BM州) ③脱穀作業の演習の様子。(10/20、HB州) ④風選により細かなクズを除去する作業の様子。(10/20、HB州)

### ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト

プロジェクト事務所  
03 BP 7123 Ouagadougou 03, Burkina Faso  
Tel: +226-67-37-59-80

Email: projetsesame@yahoo.fr  
http://www.jica.go.jp/project/burkinafaso/005/index.html

### 編集室より

雨季が終わり、10月の下旬でも気温40度の日々が続くブルキナファソですが、研修圃場では無事に収穫の時を迎えました。また、本邦研修に参加した研修員たちは、帰国してからさらに積極的にプロジェクト活動に取り組む姿勢が見られます。研修内容の充実もさることながら、日本がどうい国を少しの期間ですが体験できたことは、本人の刺激にもなり、日本人と働く上でも良い影響になったのではないかと思います。

# ブルキナファソ国 ゴマ生産支援プロジェクト ニュースレター



ブルキナファソ国 農業・水利省

独立行政法人 国際協力機構 JICA

ハイライト:  
日本でカウンターパート研修(栽培分野)を実施。参加者は中核農家への普及研修に関わる人物を中心に6名。

中核農家への実践研修も大詰めを迎え、収穫、収穫後処理の作業を実施。

## 本邦カウンターパート研修(栽培分野)が実施されました

栽培分野の研修が2016年9月11日~9月22日に日本で実施されました。この研修では、市場競争力のあるゴマ生産に必要な栽培技術や収穫後処理に関する知識を得ることを主なテーマとしました。研修員として農業水利省から2名、プロジェクト対象2州から各2名が選定され、計6名が来日しました。研修員は現在プロジェクトがブルキナファソで実施している普及研修に直接関わる人物を中心に構成されました。

### 研修員リスト

名前	所属・肩書
Mr. ZOUNGRANA Urbain	農業・水利省 生産総局(DGPV) 普及研究開発局農業キャンペーン担当
Ms. OUEDRAOGO Juliette	農業・水利省 地域経済振興総局(DGPER) 規格振興課長
Mr. SANOU Kointani	農業・水利省 ブックルドゥム州局 農業セクター振興支援協議会係長
Mr. COULIBALY Saïfoulaye	農業・水利省 ブックルドゥム州局 農業食糧安全保障情報システム係長
Mr. MALO Théophile	農業・水利省 オーバッサン州局 地域経済振興課担当官
Mr. RAMDE Souleymane	農業・水利省 オーバッサン州局 農業普及課担当官



写真: 名城大学農学部附属農場

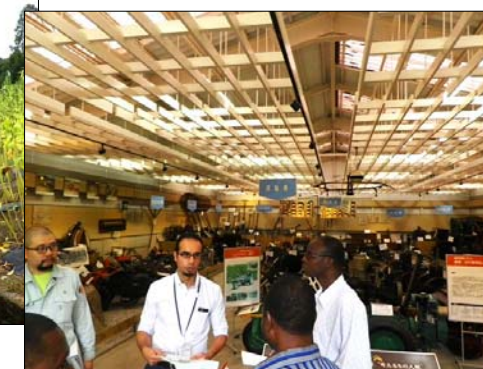


写真: 農業技術革新工学研究センター(資料館)



写真: 研修の最後、修了証を手にする研修員と関係者。

### 目次:

本邦カウンターパート研修(栽培分野)が実施されました

寄稿「本邦研修に参加して」

収穫、収穫後処理(中核農家への実践研修)

研修員は愛知、東京、茨城において、ゴマ栽培に関する講義の受講や視察を行いました。名城大ではブルキナファソのゴマ栽培事情に詳しい道山教授の講義、農林水産消費安全技術センター農薬検査部から日本の農薬登録制度についての講義、農業技術革新工学研究センターで近代および最先端の農業機械の見学、アジアGAP総合研究からJGAPによる農薬管理についての講義、中央農業研究センター安本氏よりゴマ品種「ごまそう」育成についての講義、水戸市内原地区胡麻生産研究会での収穫体験や研究会との交流など、短い期間ではありましたが充実した内容となりました。

研修日程表

日付	研修内容	研修受入機関・講師
9/11(日)	来日	
9/12(月)	AM 研修ブリーフィング・JICA表敬	JICA東京・JICA農村開発部
9/13(火)	終日 講義「ブルキナファソにおけるゴマ栽培」、農学部附属農場見学	名城大学農学部作物学研究室 道山弘康教授
9/14(水)	AM 講義「日本における農薬管理制度」	(独法)農林水産消費安全技術センター農薬検査部 中村雅也
9/15(木)	AM 農業機械・農機具「資料館」「ショールーム」見学	農研機構 農業技術革新工学研究センター
	PM ゴマ加工製品工場視察	キュービー五霞工場視察
9/16(金)	AM 講義「GAPによる農薬管理手法」	アジアGAP総合研究 武田泰明所長
	PM 講義「日本のゴマ品種開発」	農研機構中央農研センター 安本知子上級研究員
9/17(土)	終日 農家によるゴマ栽培の実際および収穫後処理体験	水戸市内原地区胡麻生産研究会
9/18(日)	Action plan等レポート作成	
9/19(月・祝)	Action plan等レポート作成	
9/20(火)	報告会・修了式	
9/21(水)	自由時間	
9/22(木)	離日	



写真：収穫および収穫後処理体験の様子。

写真：内原地区胡麻生産研究会との意見交換

アクションプラン概要

全ての講義・視察を終了したのち、研修員は所属ごとにアクションプランを作成しました。これは日本で学んだことをブルキナファソで活用するための具体的な活動計画書です。これらの活動を通してブルキナファソのゴマ生産の向上が期待されます。

所属先	短期活動/長期活動	活動内容
ブックルドゥムーン州局	短期	● 上司・同僚への報告、成果報告ワークショップ
	長期	● 農家に対する堆肥製造のための研修実施 ● GAP基準の導入 ● 適切な収穫後処理機械の導入
オーバッサン州局	短期	● 所属先への研修成果の報告 ● 農民リーダーに対するGAP、農薬管理、収穫後処理技術の指導
	長期	● 農業大学校でのGAP、農薬管理、収穫後処理技術の指導 ● GAP、農薬管理、収穫後処理技術に関するCDを作成しラジオ等で放送する。ラジオでの電話相談等の実施。
生産総局	短期	● 所属先への研修成果の報告 ● 所属先での研修成果の発表
	長期	● ゴマ農家に対する栽培と施肥の指導 ● ゴマ仕様書(cahier de charge)の改良 ● 農薬使用に関する啓蒙ポスターの作製
経済振興総局	短期	● 所属先への研修成果の報告 ● 所属先での研修成果の発表
	長期	● 各州の収穫後処理状況のモニタリング ● ゴマ仕様書(cahier de charge)の改良 ● 農薬使用に関する啓蒙ポスターの作製

寄稿「本邦研修に参加して」

農業セクター振興支援協議会係長, PRPS-BF ブックルドゥムーン州 カウンターパート  
サヌー・コワンタニ (SANOU Kointani)



2016年9月9日から22日にかけて、ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト (PRPS-BF) による本邦研修が実施されました。この研修は本プロジェクトの担当者4名と農家グループの中核農家の指導講師2名を対象とするもので、担当地域の農家に対して良質のゴマ生産支援を行う本プロジェクトの担当者の能力を強化することを目的とするものです。研修は、プログラムに関する様々なプレゼンテーション、また意見交換や現場視察、そしてゴマ収穫実習を通して行われました。このうちプレゼンテーションは多くの経験を有する大学教員や研究者が実施しました。

我々はこの研修において、ゴマ生産量の増加や殺虫剤の使用、適正農業規範の実施に必要な知識を習得しました。適正農業規範に関する日本の経験を楽しむことができたこの研修は、我々にとって非常に重要な研修であり、帰国後、我々はゴマの生産量増加と残留農薬のない良質なゴマを生産することに寄与しなければなりません。これを踏まえ、我々参加者はアクションプランを策定し、研修で習得した知識をプロジェクトに関連する農家とその農家をサポートする技術者に普及する戦略を立てました。

我々が日本で経験したことや得た知識によって、数年後にはプロジェクトが対象とする2地域のゴマ生産量の大幅増加が見込まれます。同時に、普及された知識を実践する同地域の生産者が、良質なゴマ生産のための非常に良い模範となることでしょう。こうして、農薬を適切に使用し、日本がゴマの残留農薬を心配せずに、ブルキナファソ産ゴマを直接調達することができるようになるのです。

この研修に参加しゴマ生産分野に関するこれまでの知識を高められたことは、私たちにとって大きな誇りです。ゴマフィリエールの他の農家に対しても同様の研修が実施され、本プロジェクトが全ての関係者に裨益するよう切に願っています。

この研修の実施に携わった方々に心から感謝申し上げます。

ブルキナファソと日本の協力関係にばんざい。



写真：アジアGAP総合研究所の農場にて。サヌー氏（後列右から2番目）ら参加者、同行者たち。



写真：水戸市内原地区での収穫後処理体験でゴマの脱穀作業を行うサヌー氏（中央）ら参加者たち。